はじめに

国内経済は、日本銀行が令和6年/2024年7月0.25%の利上げ実施、平成28年/2016年1月以来8年ぶりにマイナス金利が解除された。日経平均株価が史上最高値を更新（令和6年/2024年7月4万円台を記録）、公示地価上昇率や春闘賃上げ率はバブル期以来の伸びを示すなど幅広い分野でインフレ回帰が起こり、デフレからの脱却がみられた。

人の生活や経済活動は、コロナ禍前の状況に戻った。今年は「大阪・関西万博」が開催され（4月～10月）、多くのインバウンド（海外旅行者）や国内旅行者が関西の地を訪れ、京都や奈良をはじめとする日本の「和」の文化に触れる機会が増えることが予想される。

国内流通小売業は、コロナ明けの個人消費の反動や好調なインバウンド需要を背景に回復基調が継続。百貨店売上高（前年比6.8%増の5兆7,722億円）、チェーンストア売上高（同2.7%増の13兆307億円）、SC（ショッピングセンター）売上高（同5.3%増の7,970億円）ともに年間売上高がそれぞれ前年実績を上回った。しかし、令和7年/2025年1月以降、百貨店、チェーンストア、SCともにマイナス月がみられ、令和6年/2024年のプラス（コロナ後の回復）から鈍化の流れへと転じている。

日本政府観光局（JNTO）発表による令和6年/2024年の年間訪日外客数は3,686万9,900人、前年比47.1%増、令和元年/2019年比15.6%増で過去最高だった同年の3,188万2,049人を上回り、年間過去最高を更新。一方、総務省が発表した令和6年/2024年平均の消費者物価指数は、総合指数が令和2年/2020年基準（同年を100として）で108.5（2.7%増）、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数が107.0（2.4%増）、商品価格が上昇。インバウンド活況と復調していた個人消費が物価高の影響から頭打ちになる、といった消費の図式が今後より鮮明になることが予想される。

和装市場の動向は、春の十三まいり（京都・東京）、夏祭り（祇園祭、天神祭、七夕祭、花火大会、盆踊りなど全国）、秋の七五三（全国）など、きものの着装機会がコロナ以前の平常通り開催され、各地で賑がみられた。一昨年（令和5年/2023年）は、ゆかた関連の需要が高まり、産地などの流通では品薄状態が続いたが、昨年はそうした需要が起こらず、作り込みをしていたメーカー、企画提案等に力を入れていた問屋、小売では総じて商いが低調だった（令和5年/2023年の反動減とみられる）。一方、インバウンドをはじめとする観光産業は為替（円安）の追い風もあり急速に回復。観光庁の月別統計では、コロナ前を上回る旅行者数、消費額もみられた。そうした中で、きものが似合う観光地ではレンタルきものの需要が上昇、きものレンタル店が再出店、増加傾向が続いている。

また、結婚式などの冠婚葬祭についても平常に戻っているが、コロナ禍を経て式典の簡素化、小規模化が進んでいるほか、式典自体を行わないなど、価値観の変化、多様化が進んだことから、白無垢、打掛や留袖など和装を着装する機会が全体的に縮小している。一方、小中高校や大学、専門学校の入学式や卒業式できものを着て式典に参加する学生や両親（母親、祖母）が増加している、とする一部メディアの報道があり、和装業界にとっては明るい話題だが、一部の地域に限られているなど、そうした風潮が今後は全国的に波及していくことが望まれる。

縮小を続けるフォーマルきもの市場だが、カジュアルきもの、ファッション性、趣味性の高

いきもの市場は活気づいている。「きものサローネ」など、首都圏の東京都内を会場に、全国からきものファンが集うイベントとして定着、従前はフォーマルの陰に隠れがちだったカジュアル市場が、幅広い商品アイテムを揃え、新商品開発からコーディネート提案、業界内外とのコラボレーションなど、きものスタイルの新しい機軸、新しい価値観を打ち出し、新しいきもの市場を作り出すことが期待される。

基本方針

1. 既存事業を見直し、効果的な振興事業を模索する。
2. 「第20回きもの文化検定」の受験者の拡大と効率的運営に努める。
3. 組織の充実に努める。
4. 事務局機能の強化と運営の効率化に努める。

I 事業

1 知識普及事業

- (1) 「第20回きもの文化検定」の実施
- (2) 「きもの学」の開講
- (3) 学校教育和服着装事業
- (4) 「きものコンサルタント」育成事業

2 宣伝啓発事業

- (1) きものの女王大会（地区）への支援
- (2) 共催・後援・協賛
- (3) 「和装振興協議会」への参画
- (4) 「きもの日」、「きものウィーク」のきもの着用の呼びかけ
- (5) 「3月3日きもので祝う女性の日」への協力
- (6) 「ユネスコ無形文化遺産」登録への協力
- (7) 事務受託

3 調査広報事業

- (1) 調査事業
- (2) 広報事業

4 会員対策事業

- (1) 組織強化活動
- (2) 表彰
- (3) 慶弔

II 組織拡大と財政基盤の確立

1 組織の拡大

- (1) 会員募集と組織の充実
- (2) 支部の設置と活動支援
- (3) きもの振興団体との事業協力及び組織統合への取り組み

2 財政基盤の確立

- (1) 正会員と会費
- (2) 賛助会員と会費

Ⅲ 運営・管理

「きもの文化検定」事業の定着に伴い当会の活動は一定の方向が見えつつある。しかし、これを含む知識の普及事業と啓発宣伝事業を一層充実し、効率的・効果的に実施するためには会員の皆様の叡智を結集した更なる改革が必要である。又、中心事業である「きもの文化検定」を発展させるには、実務運営の充実が不可欠となっている。会員及び関係行政並びに関連団体との情報交流を密にし、円滑で効率的な組織運営に努める。